

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.7	
Q1 室内環境			0.31	-	-	3.6			
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0			
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		3.2	0.35	-	-	3.2			
2.1 室温制御		3.5	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能	外壁熱貫流率0.46w/m2K、窓熱貫流率2.83w/m2K、日射熱取得率0.41	5.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-	3.8			
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-				
1 昼光率	昼光率=6.04	5.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-				
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-				
3.3 照度		3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	人検知センサーにより自動照明制御を行っている	5.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-	4.2			
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	内装仕上材、天井裏の処理は全てF☆☆☆☆以上としている	5.0	1.00	-	-				
4.2 換気		3.0	0.30	-	-				
1 換気量		1.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮	汚染のない屋上に設けられ、排気口と6m以上離れている	5.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	全館禁煙としている	5.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3			
1 機能性		2.6	0.40	-	-	2.6			
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	事務室天井高:3.0m	5.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース	休憩所:29%	4.0	0.33	-	-				
3 内装計画		1.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.4	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	免震ピットを設置している	5.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	一部にガルバリウム鋼板とSUSダクトを使用している	5.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上水:SUS、PE、汚水・雑排水:VP、耐火二層管	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.8	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	災害時において重要性の高いシステムを優先して運転する、耐震施工を行っている、バックアップを行っている	4.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	配管の系統を区分している、汚水の一時的な貯留が可能なピットを設けている、節水便器を採用している	4.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	耐震レベルをAとしている	4.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている、精密機械の地下空間への設置を避けている、災害時に災害情報が入手できる	4.0	0.20	-	-				
3 対応性・更新性		4.0	0.30	-	-	4.0			
3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-				
1 階高のゆとり	平均階高=5.0m	5.0	0.60	-	-				

	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.097	5.0	0.40	-	-	-
	3.2	荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	-
	3.3	設備の更新性		4.2	0.40	-	-	-
	1	空調配管の更新性	ISSにより構造部材・仕上材を痛めずに更新ができる	5.0	0.20	-	-	-
	2	給排水管の更新性	ISSにより構造部材・仕上材を痛めずに更新ができる	5.0	0.20	-	-	-
	3	電気配線の更新性	配管配線方式のため、仕上材を痛めず更新が行える	5.0	0.10	-	-	-
	4	通信配線の更新性	配管配線方式のため、仕上材を痛めず更新が行える	5.0	0.10	-	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	1.7
	1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
	2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
	3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
	1	建物外皮の熱負荷抑制		2.0	0.20	-	-	2.0
	2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
	3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm]: 0.01	5.0	0.50	-	-	5.0
	4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
		集合住宅の評価		-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2	資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
	1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水便器、自動水栓を採用している	4.0	0.40	-	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-
	2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	-
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のため別が容易である、内装材と設備が錯綜していない	5.0	0.22	-	-	-
	3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-
	1	消火剤		-	-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3	敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
	1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出率47%	5.0	0.33	-	-	5.0
	2	地域環境への配慮		2.4	0.33	-	-	2.4
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
	3	交通負荷抑制	自転車置場、駐車スペースの確保、構内道路の整備を行っている	4.0	0.25	-	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	-
	3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
	1	騒音		3.0	0.50	-	-	-
	2	振動		3.0	0.50	-	-	-
	3	悪臭		-	-	-	-	-
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-